
保育士養成校におけるソルフェージュ教育の必要性(2)

音楽表現とリトミックからの実践

岡崎 裕美・二見 美千代・佐久間 敦子

Necessity of the Solfege Education in a Training School for Nursery-school Teachers (Vol. 2)
Practice by Music Representation and Rhythmic

Hiromi OKAZAKI / Michiyo FUTAMI / Atsuko SAKUMA

キーワード：保育士、音楽の基礎、読譜力、リズム遊び、音楽の楽しみ方

I 研究の背景

保育士養成課程における音楽は、ピアノ、子どもの歌、遊び歌、楽器遊び等、さまざまな音楽的技術を求められることを前提に指導される。幼稚園教育要領解説¹⁾においては、「音楽に親しみ、歌を歌ったり、簡単なリズム楽器を使ったりなどする楽しさを味わう。」と記載されている。また、保育士養成校においては、幼稚園児よりも発達年齢の幅が広いこと、保育士が習得しておくべき音楽的な知識や実技は、より幅広く身につけておくことが必要とされる。

在学中の保育実習体験は、将来の保育者としての自信にも大きく関わってくるため、器楽（ピアノ）の授業の到達目標は、日常の保育の中での歌、年中行事や季節の歌、スタンダードな子どもの歌の弾き歌いに向けての指導が望ましいと考える。

昨今、学生の練習法が様変わりしていることは否めない。YouTubeの動画や、友人が弾いているのを見て真似をするという傾向である。そもそも自分で楽譜を読む努力をすることなくピアノを弾いているということである。卒業後の初任保育者にとっては、日常の保育や発表会に向けての準備に追われ、自分のピアノ練習にかけられる時間にも制限があるため、在学中に音楽の基礎知識や楽譜を読む力を身につけておくことがとても重要であると考えられる。

本実践は、2021年3月の年報「保育士養成校におけるソルフェージュ教育の必要性 音楽表現とリトミックからの実践」の続編である。

II 研究の目的

本学においては、年々、入学時のピアノ経験者が減少傾向にある現状を踏まえ、2年間という短い期間で保育現場に生かせるピアノの技術を習得するには、楽譜から音や曲のニュアンスを自分で読み取ることそのものを楽しめるような指導の在り方を検討し直す必要があると考える。

また、ピアノ経験者においては、子どもの歌のレパートリーを増やすことや、同じ楽曲でも様々な音楽的なアレンジができるようなスキルアップを目標として取り組むよう指導する。

ピアノ未経験者・経験者、共に音楽的な知識（楽典）と読譜力（ソルフェージュ）を身につけることと、ピアノの実技訓練を併用することで、より効率的にピアノ演奏技術や弾き歌いの習得に繋がると考える。

そのためにはピアノを弾くこと、歌を歌うこと、それらを人前（子どもたちと一緒に）で表現することに苦手意識を持たないような指導法、つまり学生一人一人の強みを引き出し、音楽に興味を持てるよう促しながら楽しく学び、保育者として音楽を幅広い角度から習得することを目的とする。

2021年4月11日開催、対象者：高校生14名、担当：二見

1) 身体表現によるリズムカノン「ウォーミングアップ」

表1 リズムカノン ①

次に、リズムにダイナミクス（音の強弱）の表現を加えた「カノン遊び」を行った。これは一つ一つのリズムにダイナミクスの変化を加えることにより、先に行ったカノンと比較すると表現の要素が増えることとなる。音の強弱を表現するためには、楽器の鳴らし方にどのような工夫が必要であるかということを理解する機会となる。例えば強い音を表現するためには、身体の動きの大きさを変えずに力を強くするより身体や腕を大きく動かして楽器を鳴らす方がより自然に表現しやすく、弱い音を表現するためには、身体の動きはより小さく動かす方が表現しやすいということが理解できるようになる。（表2）

表2 リズムカノン②

2) 身体表現によるカノン「こぶたぬきつねこ」

20

初めに、子どもが興味を持ちやすいように、「こぶた」、「たぬき」、「きつね」、「ねこ」の4つの動物の絵カードをめくりながら歌い、歌詞が頭に入った段階で歌詞に手振りをつけて歌う取り組みを行った。(資料1)

この取り組みでは、先に行ったダイナミクスの表現を応用し、音の強さと手振りの大きさを繋げた動きを行った。例えば、強い音で歌う時は大きな動きで表現し、弱い音で歌う時は小さな動きで表現した。

資料1 「こぶたぬきつねこ」手遊び



(出典) ダルクローズ教育法によるリトミックコーナー

次に、色々なニュアンスで同曲を歌い身体表現をする取り組みを行った。音楽では様々なニュアンスを表現することができるが、この取り組みでは1.「元気よく」、2.「困った感じ」、3.「急ぐ感じ」の3つのニュアンスを表現した。また身体表現をする際、手の動きが視覚的に分かりやすいよう両手の指に紙花を付けた。指導者がピアノで各ニュアンスに沿って演奏し、生徒はそのピアノの音を聴いて表現方法を判断した。

さらに、スタッフの学生4名が、「こぶた」、「たぬき」、「きつね」、「ねこ」の絵が描かれたカチューシャを被ってそれぞれの動物役としてリズムを使った身体表現を行い、生徒がその動きの真似をするとい

表3 動物のリズムと身体表現方法

動物名	リズム	身体表現方法
こぶた	♪ ♪ ♪ ♪	肩をたたく
たぬき	♪ ♪ ♪	腰を振る
きつね	♪♪♪ ♪ ♪	両手を口に当ててから手を振る
ねこ	♪ ♪ ♪	膝に触れてから手を上にあげる

う取り組みを行った。各動物のリズムと身体表現方法は次の表で示す。(表3)

これらの身体表現の動きについては、初めにスタッフの動物役が各リズムの動き方を示し、続いて生徒が動きの真似を行った。使用したリズムは次の取り組みを考慮し、楽曲「フレールージャック」のリズムを使用した。指導者がピアノでこの楽曲を伴奏し、音楽に合わせながらスタッフと生徒の身体表現によるリズムカノンを行った。

3) 打楽器によるリズムカノン「フレールージャック」

参加者全員を二つのチームAチームとBチームに分け、全員で打楽器によるリズムカノンを行った。楽曲は引き続き「フレールージャック」を使用し、リズムを明確に表現するために打楽器はスズとタンブリンを採用した。Aチームにはスズを、Bチームにはタンブリンを配布し、チーム毎に「フレールージャック」のリズムと身体表現方法を確認した後、Aチーム（先行）とBチーム（後続）のカノンを行い、またその逆も行った。(資料2)

資料2 「フレールージャック」 カノン演奏順 「フレールージャック」：フランス民謡



4) 3つのパートによるリズムカノン「カエルの歌」

楽曲「カエルの歌」を使用し3つのパートでカノンをする取り組みを行った。初めに、全員で「カエル歌」のリズムを打楽器で鳴らしながら歌い、歌詞とメロディーを確認した。使用楽器は、Aチームがスズ、Bチームがタンブリン、指導者がカスタネットとし、Aチーム（先行）、Bチーム（後続①）、指導者（後続②）で歌とリズムカノンを行った。さらに、全チームが先行、後続①、後続②を体験できるよう、演奏順を交代して行い、またその逆も行った。（資料3）

資料3 「カエルの歌」 リズムカノン譜 「カエルの歌」：ドイツ民謡

カステネット

かえるのうたが きこえてくるよ クワツ クワツ クワツ クワツ ケロケロケロケロ クワツクワツクワツ

スズ

かえるのうたが きこえてくるよ クワツ クワツ クワツ クワツ ケロケロケロケロ クワツクワツクワツ

タンブリン

かえるのうたが きこえてくるよ クワツ クワツ クワツ クワツ ケロケロケロケロ クワツクワツクワツ

(2) 体験講座 「ミュージックベルを演奏してみよう～♪きらきら星～」

2021年4月25日配信、対象者：WEB視聴者13名、担当：二見

本来は対面講座の予定であったが、コロナウイルス感染予防の観点から動画配信での講座となった。

1) 講義内容

1. 「ハンドベルとミュージックベルの違いについての解説」、2. 「ハンドベルとミュージックベルの歴史についての解説」、3. 「実践方式でのミュージックベルの基本の持ち方と奏法の種類の紹介」、4. 「実践方式での楽曲演奏方法の解説」、5. 「楽曲演奏」、6. 「課題」とした。このうち、ここでは「実践方式での楽曲演奏方法の解説」と「楽曲演奏」、「課題」について紹介する。

2) 実践方式での楽曲演奏方法の解説

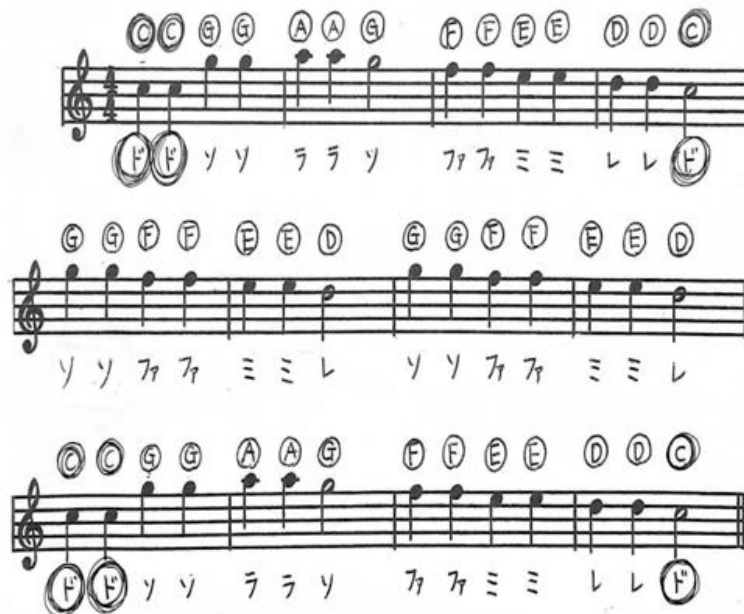
ミュージックベルは、一人でも複数人でも演奏できるため応用性の高い楽器であるが、本講座では初心者を対象とするため一人1音を担当し複数人で演奏することを紹介した。楽曲「きらきら星」は6つの音で構成されているため、ハ長調では「ド、レ、ミ、ファ、ソ、ラ」の6つのミュージックベルが必要となる。複数人でミュージックベルを演奏する場合、演奏の準備として楽譜から自分の担当音を見つけることが必要になるため、各自の演奏の妨げにならないことも考慮し事前作業として楽譜上の担当音に色を付けることを紹介した。例えば、次の資料4は「ド」を担当音に印をつけたものである。実際に

は「ド」に赤色の○を記載している。

このように「レ」「ミ」「ファ」「ソ」「ラ」も同様の作業を行い、担当音別の色付け楽譜を作成したものも合わせて紹介した。個人の練習方法の解説では、指導者が伴奏に合わせて各音のベルを演奏したものを紹介した。

資料4 「きらきら星」ベル担当音「ド」の楽譜

フランス民謡



資料5 「きらきら星」ハーモニー付楽譜

フランス民謡

Allegretto



3) 楽曲演奏

ミュージックベルの演奏では、一人の担当ベル数を増やすことやベルの持ち替え作業を加えることにより少人数でも楽曲を演奏することができる。本講座では、指導者2名が担当ベルを3本ずつ合計6本使用し演奏することで少人数によるミュージックベルの演奏の紹介とした。ミュージックベルの演奏は、皆でメロディーを奏でる楽しさの中に、相手に音を繋ぐ責任感や相手と共に音楽を作り上げることで協調性を養い、奏でた響きを聴き合うことでハーモニーを感じることができる。

資料5は、「きらきら星」のメロディーにミュージックベル演奏に適したハーモニーを筆者が加えたものである。楽譜内に示されている波線は、ミュージックベルの奏法の1つであるトレモロ奏法を示している。長い音符を演奏する際、音がしっかり残り他の音とのハーモニーを感じやすくするためである。さらに、トレモロ奏法ではダイナミクスを表現しやすいため、表情豊かな演奏が可能になる。また、波線のない音符はスプリング奏法で演奏することとした。

4) 課題

本講座の振り返りのため1.「ベルの手元を示されているアルファベットは何を表しているか」、2.「今回学んだ2つの奏法の名前は何か」、3.「ベルを演奏することによってどんなことが身につくと期待できるか」の3点の項目を課題とした。

(3) オープンキャンパス 「リズム遊び～ボディパーカッション」体験

2021年6月20日開催、対象者：65名、WEB視聴者2名 計67名、担当：岡崎

1) 模擬授業(1) 遊びながら身につけよう！『保育に生かせるリズム遊び「まねっこリズム」』

1) - 1 4分音符と8分音符を知ろう！

本実践では、まず、いろんな音符の長さを理論から理解すること、次に、体で感じながら4分の4拍子の感覚を体得する取り組みを行った。教材として取り上げた「まねっこリズム」は、幼児にとっては遊びながらリズム感を習得することができる遊びである。本実践では、4分の4拍子を例にとってリズム遊びをする取り組みを行った。「まねっこリズム」(高附恵子/作詞作曲)の基本的な遊び方は、リーダーとなる人が作った4分の4拍子の1小節分のリズムを、他の全員(まねっこ隊)が真似するというものである。

遊び方の説明の前に、4分の4拍子とはどんな拍子であるかを説明した。4分の4拍子とは、1小節の中に4分音符が4つ分入る拍子である。4分音符を○1個に例えると、1小節の中には、○が4個分○ ○ ○ ○入るということになる。リーダーが作ったリズムをまねっこ隊がまねっこをするためには、1拍の隙間、つまり、まねっこを受け渡すためのタイミングが必要であるため、最後の1拍(4拍目)は休符とすることを伝え、○ ○ ○ ●(4拍目は4分休符)となることを説明する。(●=4分休符)この休符の時に「ハイ！」と声を出して、まねっこ隊にバトンタッチを促す。

次に、4分音符の半分の長さの8分音符を説明する。8分音符は○の半分の長さであることを説明し、4分音符1個は、8分音符2個に分けられる(※ここでは8分休符の説明はしない)。リーダーは、4分音符、4分休符、8分音符2個を組み合わせ、1小節間(○4個分)のリズムを作ることにした。

(例1) 「リーダー」 ♪ ♪ ♪ ● (タンタンタンウン) →

「まねっこ隊」 ♪ ♪ ♪ ● (タンタンタンウン)

(例2) 「リーダー」 ♪ ♪ ♪ ♪ ● (タンタタタンウン) →

「まねっこ隊」 ♪ ♪ ♪ ♪ ● (タンタタタンウン)

(例3) 「リーダー」 ♪ ♪ ♪ ♪ ♪ ♪ ● (タタタタタンウン) →

「まねっこ隊」 ♪ ♪ ♪ ♪ ♪ ♪ ● (タタタタタンウン)

1) - 2 動物の鳴き声をリズムにしてみよう！

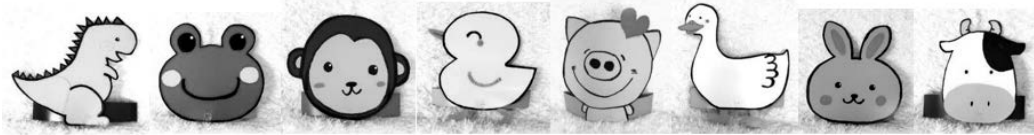
いろんな動物の鳴き声をリズムに置き換えてみる。その鳴き声のリズムで4分の4拍子の1小節分のリ

リズムを作る。それぞれの動物の動きをイメージすることで、より表現豊かに音楽的（立体的）にリズムを体感することができる。

（動物の鳴き声の例）「ガアガアガア」＝ 』 』 』 ●（●＝4分休符）

次に、それぞれの動物の特徴的な動きをイメージして身体表現をする。発表会などでは、お面（資料6）をつけることにより、より楽しく表現することができる。

資料6 「まねっこリズム」お面の例



1) - 3 「まねっこリズム」の音楽に合わせてやってみよう！

リーダーがそれぞれの動物の特徴的な動きのジェスチャーをした後に、まねっこ隊が真似をする。

この時に大切なことは、例えば、あひるの「ガアガアガア」の鳴き声を動きと同時に発しながらまねっこをすることである。幼児の表現の原点は、なりきることから始まる。鳴き声を発することによって、より動物の特徴的な動きが具体的にイメージされ、いきいきと豊かな身体表現となる。

資料7 「げんきもりもり」のリズム譜（筆者作成）

2) 模擬授業(2) ボディパーカッションに挑戦しよう！

ボディパーカッションは、体を楽器にして、音楽を表現する音楽活動であり、リズム遊びとボディパーカッションは密接な関係にある。子どもたちにとってのボディパーカッションは、体を使った楽しいゲームのようなものであり、歌が苦手でも、楽器の演奏ができなくても、楽譜が読めなくても、誰でも参加できることが特徴である。本実践では、筆者のオリジナル曲「げんきもりもり！」（資料7）で実践した。

2) - 1 言葉のリズムを音符で表してみよう！

本実践では、「いちご」「バナナ」「くり」「らっかせい」「ねぎ」「にんじん」「トンカツ」「ステーキ」

資料8 「げんきもりもり！」の衣装例



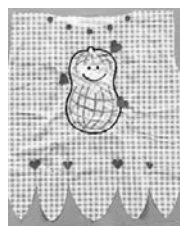
○いちご



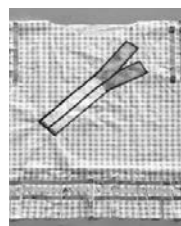
④バナナ



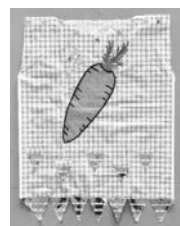
⑤くり



⑥らっかせい



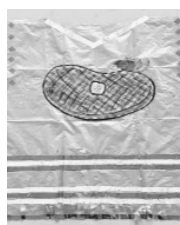
⑦ねぎ



⑧にんじん



⑨トンカツ



⑩ステーキ



⑪げんきもりもり

などの言葉を使用した。これらの言葉をラップ的なリズムに置き換えて、いちご＝♪♪♪、バナナ＝♪♪♪、くり＝♪、らっかせい＝♪♪♪♪、ねぎ＝♪♪、にんじん＝♪♪、トンカツ＝♪♪♪♪、ステーキたべて＝♪♪♪♪♪、最後に、げんきげんき もーりもり＝♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪を付け加えた。

さらに、各パートリーダーは衣装（資料8）をつけることにより、それぞれのパートの流れをわかりやすく印象づけるよう工夫した。

2)－2 リズムを3パート（④・⑤・⑧）のモチーフと、

⑪を含めた全員で行うモチーフの4つのモチーフを作る。

④パートのモチーフ：いちご・バナナ

⑤パートのモチーフ：くり・らっかせい

⑧パートのモチーフ：ねぎ・にんじん

⑪を含めた全員で行うモチーフ：トンカツ・ステーキたべて・げんきげんきもーりもり

2)－3 幼児の簡易楽器を使って、楽器遊びに展開しよう！

④・⑤・⑧のパートのリズムを、カスタネット、タンブリン、スズ、を使って合奏スタイルに展開する。（⑪の担当楽器は、トンカツ＝カスタネット、ステーキ＝タンブリン、げんきもりもり＝スズとした）

④パートの楽器：カスタネット

⑤パートの楽器：タンブリン

⑧パートの楽器：スズ

⑪を含めた全員で行うパートの楽器：カスタネット・タンブリン・スズ

この合奏は、④→④+⑤→④+⑤+⑧→④+⑤+⑧+⑪ という構成である。いろんな楽器が重なっていくことで、音が厚くなっていく楽しさを味わうことができる。

（4） 高大連携事業「初心者のための音楽基礎講座」

2021年10月9日開催、対象者：高校生29名、担当：岡崎・二見

1) 楽譜を楽しく読んでみよう！

五線譜の名前、五線譜の中では表せない高音域と低音域の音符の書く時に必要な加線の書き方を説明した。大譜表は、最初に説明した五線の左端にト音記号とヘ音記号を正確に書き、高音部譜表と低音部

譜表を作る。それを縦線でつなぎ、{|カッコで括る。

音符の読み方は、手を叩きながら口頭でリズムを唱えるための訓練である。唱え方は指導者によって多少異なるが、本実践では、4分音符＝タン、4分休符＝ウン、8分音符＝タ、8分休符＝ウ、とした。拍子記号については、4分の4拍子を例に取り、ト音記号とヘ音記号のすぐ右隣りに書くこと、また、拍子記号は、曲のどこかで拍子が変わる場合以外は、最初のみとする。このように、譜面の一つ一つの表記を詳細に理解することが必要であると考えた。(資料9)

資料9 配付プリント

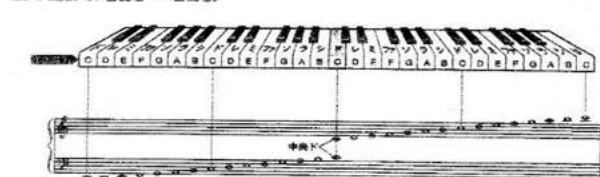
夏休み企画 『音楽の基礎講座(1)』 音楽用 2021.10.9

●楽譜を楽しく読んでみよう！ (15分)

1. 五線譜



2. 大譜表 (ト音記号・ヘ音記号)



3. 音符 (休符) の読み方

4分音符	ニタン	4分休符	ニウン
8分音符	トニタ	8分休符	トニウ

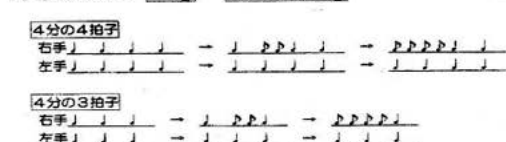
・ 4分音符	ニ	ニター	ター
・ 2分音符	ニ	ニター	ター
・ 4分音符	ニ	ニター	ター
・ 全音符	ニ	ニター	ター

4. 拍子記号

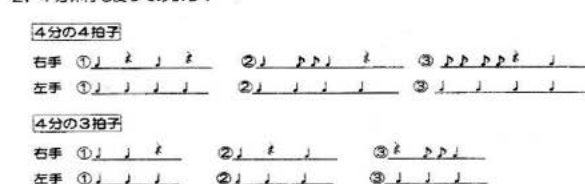
- ・ 4分の4拍子は、1小節に{|が 4つ入る拍子
 - ・ 4分の3拍子は、1小節に{|が 3つ入る拍子
- 4分音符 {|とすると
- ・ 4分の4拍子は、{| = {| 入る拍子
 - ・ 4分の3拍子は、{| = {| 入る拍子

●リズムで遊ぼう！ (30分) 『リズムエクササイズ』にチャレンジ！

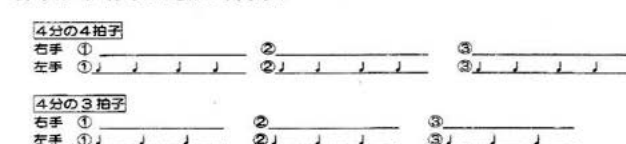
1. 音符で遊ぼう！



2. 4分休符も使ってみよう！



3. グループで、リズムを作ってみよう！



4. 2人組で、タンブリン・カステネットを使ってリズム遊びをしてみよう！

右手 (カステネット)
左手 (タンブリン)

2) リズムで遊ぼう！

音符で遊ぼう！ 4分音符と4分休符、8分音符を使って、4分の4拍子、4分の3拍子の1小節間のリズムを作ってみる。二人一組になり、お互いのリズムを聴き合いながら手で叩いてみる。次に、右手と左手のリズムを交代して叩いてみる。これは、両手でピアノを弾く際に、右手のリズムと左手のリズムがどのようなタイミングで構成されているかを聞き分けるための理解に繋がる。(今回は時間の都合で、「4」の楽器を使っ

3) 鍵盤を弾く準備をしよう

ここでは、初心者でも容易に演奏可能な楽曲として、両手とも「ドレミファソ」音のみで構成される楽曲「ちょうちょう」を弾くための準備を行った。

初めに、実寸大の2オクターブ分の紙鍵盤を使用し、鍵盤上の「ド」の位置を確認した。ト音記号の「ド」(上1点ハ音)とヘ音記号の「ド」(ハ音)の位置の違いを確認した。この際、じゃんけんをするように右手で「ゲー」と「チョキ」を作り、紙鍵盤の黒鍵部分のうち三つの東になっている部分に「ゲー」を、二つの東になっている部分に「チョキ」を置いて黒鍵の位置を確認することにより「ド」の鍵盤の位置を特定できることとした。また、紙鍵盤に連結された楽譜には鍵盤の位置に沿って音符が書かれており、その各音符に音名を記入することで楽譜の音名を確認した。これは、本講座における「楽譜を楽しく読んでみよう」の応用の取り組みである。

次に、鍵盤を弾く際の基本的な手の形として、テニスボールを軽く握るようなイメージを持つように指導した。今回の対象者は全員高校生であるため、多くの生徒が容易にイメージできるテニスボールを

取り上げた。ピアノを弾く際は指の打鍵の動作によって音を出す、この基本の手の形ができていることで打鍵を容易にすることができる。言い換えれば、この基本の手の形ができているとピアノの音を上手く出すことが難しくなる。このため、基本的な手の形について鍵盤を弾く前に確認した。

続いて、紙鍵盤を使用し、上1点ハ音から始まる「ドレミファソ」の位置に右手の「12345」指を、ハ音から始まる「ドレミファソ」の位置に左手の「54321」指を置いて各指の位置を確認した。このとき、それぞれ基本の手の形を維持し紙鍵盤上の爪先の位置に印を付けた。これにより鍵盤上の指の置く位置が視覚的に分かりやすくなり、また基本の手の形で弾くことを意識させることができる。

最後に、プリントに記載されている手のイラストに両手の指番号を記入し、実際に指を動かしながら指番号を確認した。

4) ピアノ実技「ちょうちょう」をアンサンブルしてみよう！

ここでは、楽曲「ちょうちょう」のアンサンブルの取り組みを行った。

初めに、メロディーと伴奏を構成する音符の長さを確認するためにリズムの手拍子を行った。今回使用した楽譜では、メロディーは4分音符と2分音符のみで構成され、伴奏は全音符のみで構成された単純なリズムのため、ほとんどの生徒は余裕をもって行うことができた。また、演奏の準備として楽譜の全ての音に音名と指番号を記入することにより音と各指の位置の確認を行った。本来ピアノ演奏をする際は、音名は楽譜に記入せず読譜をするのだが、今回は初心者を対象としていることと短時間で楽曲演奏をすることを目標としているためこの取り組みを取り入れた。

次に、各自の電子ピアノ※を使って手の形に気を付けながら片手ずつ「ドレミファソ」を弾き、実際の鍵盤で音の確認を行い、右手でメロディーを、左手で伴奏を弾いた。この時、実際に聞こえてくる音と音名を一致させるために、音名を言いながらゆっくり指を動かすこととした。


最後に、全員をA・B、2つのグループに分け、Aグループは右手でメロディーを、Bグループは左手で伴奏を担当し、全員で合わせるアンサンブルを行った。テンポについては、初めは遅いテンポで合わせ、次第に速いテンポで合わせることにした。電子ピアノ内臓のリズムに合わせて、Aグループ、Bグループが各組で弾いた後、A・Bグループ全員でアンサンブルを行った。アンサンブル時の電子ピアノ内臓のリズム名は「モーターシティ」、テンポは♩ = 100とした。また、A・Bグループの担当を交代し、再び電子ピアノ内臓のリズムに合わせて全員でのアンサンブルを行った。この際、多くの生徒は演奏することに慣れてきた様子がみられたため、先に行ったアンサンブルと比較して少し複雑なリズムで、かつ速いテンポを取り入れた。この時の電子ピアノ内臓のリズム名は「ファンキーシャッフル」、テンポは♩ = 110、120の2つのテンポである。

※電子ピアノ機種 ヤマハクラビノーバCSP-150


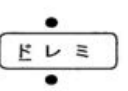
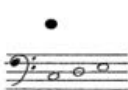
5) 「わくわくクイズ」と「ドキドキクイズ」


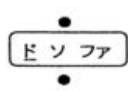

本講座のまとめとして、音楽基礎知識のミニテストを行った。1.「ト音記号、ヘ音記号での音名を理解できるか」、2.「ト音記号、ヘ音記号の音を鍵盤と一致できるか」、3.「音符の長さの音価を理解できるか」、4.「音符や休符の読み方を理解できるか」、の4点についてクイズ形式の簡単なテストを10分程度で実施し、回答と解説を行った。採点は各自で行い回答用紙は提出不要としたため正答率は不明であるが、担当講師の目視確認では半数以上の生徒がおおよそ正解していた。(資料10)


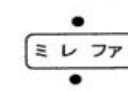

資料10 ミニテスト問題



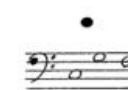
🎵 わくわくクイズ 🎵 [ の音を使いましょう。]

★1. 同じ並びになっているものを線で結びましょう。ト音記号と音名、ヘ音記号と音名をつないでみましょう。
















★2. 下の音は、鍵盤のどの位置になるでしょう？ 一致する鍵盤に番号を書きましょう。



🎵 ときどきクイズ 🎵

★1. 音符・休符の計算をして、①②③は音符を、④は休符を1つ書きましょう。

① $\text{♪} + \text{♪} =$ ② $\text{♪} + \text{♪} =$ ③ $\text{♪} - \text{♪} =$ ④ $\text{♪} - \text{♪} =$

★2. 次の読み方が合っていれば○を、間違っていれば×を書きましょう。

① $\text{♪} \rightarrow \text{タ}$ ② $\text{♪} \rightarrow \text{ター}$ ③ $\text{♪} \rightarrow \text{ク}$ ④ $\text{♪} \rightarrow \text{タ}$

(5) 高大連携事業 「初心者のための音楽基礎講座」

2021年11月21日開催、対象者：高校生27名、担当：岡崎・二見

本講座は、同年10月9日に行われた「初心者のための音楽基礎講座」(以下、「前回の講座」とする)の続編として行われ、受講生は前回の講座を受講した生徒と今回初めて受講する生徒が混在するため、前回の講座の振り返りとその発展内容を行った。前回講座の振り返りは前述してあるため、ここでは発展内容を解説する。

1) 楽譜を楽しく読んでみよう！

1) - 1 五線の知識を正しく覚えて書いてみよう！(資料11)

前回の講座の中で、ト音記号とヘ音記号の書き方について、その形は漠然と知ってはいるが、実際に正確に書いたことがないことが判明したため、今回は説明の方法を改善して行った。ト音記号は、第2線から書き始めること、ヘ音記号は第4線から書き始め、2つの点は、第3間と第4間に書く。この時に、前回の講座ではここで日本音名の「ト」と「ヘ」を説明したことで少し混乱を招いたため、今回は、音部記号を書き始める場所と、形の書き方に留めた。

1) - 2 拍子記号・縦線・終止線を書いてみよう！

前回の講座の中で、終止線を五線譜の最後の右端ではなく、五線の途中に記入している生徒が多く見られたので、既成の楽譜を見せて説明を行った。

1) - 3 音名を書いてみよう！

音名とは、ある高さの音につけられた名前であり、音名表記の種類は、イタリア音名(ドレミファソラシド)、日本音名(ハニホヘトイロハ)、英・米音名(CDEFGABC)がある。ここで、最初にしたト音記号の「ト」、ヘ音記号の「ヘ」の音名の意味が理解できた。英・米音名については、コードネームの項目で学ぶので覚えておきたい。

『音楽の基礎講座』 2021. 11. 21 (日)

1. ト音記号とヘ音記号を書いてみよう！

2. 拍子記号・縦線（じゅうせん）・終止線を書いてみよう！

3. 音名を書いてみよう！（音名表記）

イタリア音名 () () () () () () () ()
 日本音名 () () () () () () () ()
 英・米音名 () () () () () () () ()

4. 五線の名前と加線

5. 大鍵盤を作ろう！

6. 音符（休符）の長さをで表してみよう！

4分音符（J） J = とすると
 ・4分音符 J (4分音符) = (りんご1個)
 ・2分音符 J (2分音符) = (りんご2個)
 ・全音符 O (全音符) = (りんご4個)

8分音符（♪） ♪ = (りんご0.5個)

7. 付点について（付点=もとの音符の半分の長さを表す）
 ・付点4分音符 J. = (りんご1.5個)
 ・付点2分音符 J. = (りんご3個)

8. 拍子について
 ①4分の4拍子は、1小節の中に J J J J = 入る拍子
 ②4分の3拍子は、1小節の中に J J J = 入る拍子
 ③4分の2拍子は、1小節の中に J J = 入る拍子
 ④8分の6拍子は、1小節の中に ♪ ♪ ♪ ♪ ♪ ♪ = 入る拍子

9. 音符（休符）の読み方
 4分音符 J = タン 4分休符 ♯ = ウン
 8分音符 ♪ = タタ 8分休符 ♯ = ウ

10. リズムで遊ぼう！ 『リズムエクササイズ』にチャレンジ！（別紙）
 ①4分の2拍子
 ②4分の4拍子
 ③4分の3拍子
 ④8分の6拍子

1) - 4 五線の名前と加線

前回の講座の中で加線の説明をしたが、実際に加線の書き方についての説明が不足していたことから、今回は、加線が必要な音符には、その音に達するまで、その都度何本かの加線を書く必要があることを追加した。例えば、二点ハは上第2線の上に音符を乗せるが、この時、上第1線、上第2線の2つの加線を書く必要があるということを説明した。同様に、下第1線、下第2線…以下についても、各音符一つ一つに何本かの加線を書く必要があることも付け加えた。また、1オクターブの範囲の説明も行った。

1) - 5、6については、省略する。

リーダーがそれぞれの動物の特徴的な動きのジェスチャーをした後に、まねっこ隊が真似をする。

1) - 7 付点について

付点とは、元の音符の半分の長さを表すもので、付点音符は、元の音符の長さにその音符の半分の長さを足した長さの音符であることを説明した。

（例：付点4分音符 = 4分音符 + 8分音符）

1) - 8、9については、省略する。

2) リズムで遊ぼう！ 「リズムエクササイズ」にチャレンジ！（資料12）

音符（休符）を声（タン、ウン、等）に出して読みながら、リズム譜を手で叩いてみる。2声になっているリズム譜は、2人組になってお互いのリズムを聴き合いながら合わせてみる。

時間の都合上、①②までしか実施できなかったが、今回は、タンブリン、カスタネット、ズズの楽器をそれぞれ担当してエクササイズに取り組んだ。音の違いでリズムの縦線がはっきりと理解できるようになった。

3) 鍵盤を弾く準備をしよう！

楽曲「カエルの歌」を両手で演奏することを考慮し、前回の取り組みに加え、右手の指を「ドレミファソ」から「ミファソラシ」の位置に変えるポジション変えを素早く行う取り組みを行った。

初めに、実寸大の紙鍵盤に基本の手の形で「ド」の位置に「1」指を置いた後すぐに「ミ」の位置に「1」指を移動するという動きを繰り返し行い、続いて「ドレミファソ」の位置に「12345」指を置き、す

資料12 リズムエクササイズ



ぐに「ミファソラシ」の位置に「12345」指を置くという動きを繰り返し行った。これは、1本の指でのポジション変えと5本の指全部でのポジション変えの練習である。実寸大の紙鍵盤を使用することにより、鍵盤を移動する際に必要な距離を感じ取ることを目的としている。

次に、左手の「5」と「1」の指で「ド」と「ソ」を同時に押さえ、重音を弾く取り組みを行った。これは、「カエルの歌」の伴奏にあたる部分のため、先述の右手の動きと同時に行うこととした。

4) ピアノ実技「カエルの歌」を両手で弾いてみよう！

本講座はピアノ初心者を対象とした講座であるため、ピアノ実技においては手の最小限のポジション替えのみ行うこととした。このため、両手奏が行いやすい楽曲「カエルの歌」を取り入れた。また、ピアノの鍵盤と椅子の高さの関係については、ピアノ学習の初期の段階で無理なくピアノを弾く姿勢を身につける上で重要であるため、各自の電子ピアノで実際の鍵盤の位置の確認とピアノを弾く際の姿勢についても合わせて解説を行った。

初めに、対象者が初心者であるため読譜にかかる時間の短縮を図り楽譜に音名と指番号の記入を行った。その上で、右手と左手の動くタイミングを正確に合わせるための練習として、まず片手ずつ鍵盤の蓋の上でリズムを打ち、次に両手合わせてリズムを打つ取り組みを行った。この際、リズムと音名を同調させるため、片手のリズム打ちの際は音名を歌いながらリズム打ちを行うことを取り入れた。

次に、実際の鍵盤で右手を2小節ずつ、4小節ずつ、8小節と少しずつ演奏部分を増やしながら模奏を行った。また、左手においてはほとんどが全音符で構成されているため、講師と同時に曲の初めから最後まで弾くことで音の確認を行った。

両手奏においては、右手のみの時と同様に2小節ずつ、4小節ずつ、8小節と演奏部分を増やす方法で模奏を行い、右手のポジション替えを含む箇所を重点的に繰り返し行った。

最後に、電子ピアノ内臓のリズムに合わせて全員で両手奏を行った。この際、初めは遅いテンポで演奏し、少しずつ速いテンポに合わせて演奏することとした。この時の電子ピアノ内臓のリズム名は「70s

たり動いたりして遊ぶ」という入口を忘れてはならない。また、楽器遊びに用いられる音楽は、子どもが楽器で打ってみたいくなる要素を多く含んでいるものを推奨する。子どもは言葉（詩）からイメージを膨らませ、そこから「打つ」という身体的表現に変えていくからである。

2) ウォーミングアップ Ver.「アイアイ」(相田裕美/作詞、宇野誠一郎/作曲)のリズム練習

参加した高校生もよく知っているスタンダードな子どもの歌「アイアイ」を教材に取り上げ、4分音符と4分休符で合奏のウォーミングアップを行った。楽器は、タンブリン、カスタネット、スズ、の3種類を使用した。3人一組のグループを作り、自分が担当する楽器パートのリズム譜を確認した後、3種類の楽器のリズム打ちをそれぞれが体験し、歌入りの「アイアイ」のCDに合わせて合奏するという取り組みを行った。(参加者は楽器のリズムを打つことに精一杯になるため、同時に歌うことが厳しい。かといって、指導者が歌いながら同時に的確な指示を出すことも厳しいため、ここでは歌入りのCDを活用した)(資料15)

資料15 「アイアイ」のリズム譜参照

事例3 4/4 「アイアイ」

ウォーミングアップ Ver.

相田裕美 作詞 / 宇野誠一郎 作曲

♩=112~120

アイアイ (アイアイ) アイアイ (アイアイ) おき るさーんだ よ

アイアイ (アイアイ) アイアイ (アイアイ) みな みのしまー の

アイアイ (アイアイ) アイアイ (アイアイ) しーほのな が い

アイアイ (アイアイ) アイアイ (アイアイ) おき るさーんだ よ

3) 「さんぽ」(中川李枝子/作詞、久石譲/作曲、橋本祥路/編曲)の楽譜についての説明

この曲には、前奏のタンブリンのパートの2小節目に3連符が出てくるので、3連符とは、4分音符(りんご🍏1個)を3等分した音符であることを説明し、その小節を集中的に練習した。歌に合わせて、3つの楽器のパート練習をし、最後に歌入りの「さんぽ」のCDに合わせて合奏するという取り組みを行った。(資料16)

4) 「あわてんぼうのサンタクロース」(吉岡治/作詞、小林亜聖/作曲・編曲)のリズム譜(資料17)についての説明

この曲では、歌の歌詞に合わせて、スズ、たいこ、カスタネット、タンブリンの4種類の楽器を使用した。まず、歌詞に合わせて、歌の前半部分の振り付けの練習をし、次に、後半の歌詞に合わせて、(スズ) ♪リンリンリン、(たいこ) ♪ドンドンドン、(カスタネット) ♪チャッチャッチャ、(タンブリン)

ン) ♪ シャラランランの箇所は、楽器のリズム打ちの練習を行った。

5) ミュージックベルの演奏練習

前奏の10小節間は、クリスマスの雰囲気を演出するために、ミュージックベルで演奏するパートにした。(資料18) このミュージックベルについては、初めてミュージックベルの演奏を体験する高校生が

多いことを想定し、事前に学生スタッフにベルの持ち方や演奏方法を指導しておいた。ミュージックベルは、C・F・G・A・♭B・↑C・↑Dの7つのベルをそれぞれ2個ずつ2人で演奏できるように準備した。

本実践では、事前に指導し、練習しておいた学生スタッフが演奏のお手本を見せ、高校生に順次参加してもらうことにした。学生スタッフのお手本演奏の後、学生スタッフと高校生が向かい合ってミュージックベルの演奏練習に取り組んだ。

資料16 「さんぽ」のリズム譜参照

●さんぽ 幼児の楽譜あそび Ver. 中川幸枝子 作詞/久石 譲 作曲/橋本寿雄 編曲

♩=120 (♩♩♩♩♩♩)

①

②

資料17 「あわてんぼうのサンタクロース」のリズム譜

●あわてんぼうのサンタクロース 幼児の楽譜あそび Ver. 吉岡 浩 作詞/小林聖良 作曲

♩=104-112

①

②



最後に、学生スタッフがピアノ伴奏を担当し、「あわてんぼうのサンタクロース」の楽曲全体を通して成果発表を行った。

Ⅳ 結果と考察

本研究は、音楽の初心者である受講生が短期大学の2年間という限られた時間の中で、保育現場に欠かせないピアノ演奏技術や音楽基礎知識を、楽しく正しく効率よく習得させるための方法を調査することが目的であった。

本研究で行った7つの講座では、リトミック、リズム遊び、ボディパーカッション、ピアノ演習、楽器遊びの観点からの体験的な実践に加え、音楽知識を基礎から学ぶことにより、音楽教育を受けた経験の有無を問わず、受講者が音楽を楽しむ興味を持つきっかけになったと考えている。

リトミックの観点からは、身体表現を含む様々な形態のカノンを通して、相手の動きや音につられないように集中し、後続パートは先行パートの動きや音を覚えるために懸命に記憶し、皆で一つの曲を表現するという協調性がみられた。

リズム遊びの観点からは、動物の鳴き声を音符に置き換えてリズム化し、お面をつけることによって動物のイメージをしやすくなり、相手を見て楽しみながらリズムを表現する様子がみられた。

ボディパーカッションの観点からは、受講生同士でお互いに励まし合う様子や自ら練習方法を考え出す様子がみられ、コミュニケーション能力、協調性、集中力、責任感を身につける重要性に気づいたと考えられる。また衣装を着けて行うことにより、幼児におけるリズム遊びのイメージも作ることができたと考えている。

ピアノ演習の観点からは、実際のピアノに触れる前段階において実寸大の紙鍵盤を使用し、楽譜の音符と鍵盤の位置関係の理解と鍵盤上の距離をある程度把握することにより、実際のピアノで音を出す際にスムーズに実践ができたと考えられる。また、電子ピアノ内臓のリズムに合わせて演奏することにより楽しみながら練習を重ねる様子がみられたことから、このようなツールを使うことは練習意欲の向上に役立つと考えられた。

楽器遊びの観点からは、受講生同士がお互いのリズムパートをよく聞き合いながら演奏することができ、振り付け・リズム・ミュージックベルの3つの要素が混在する取り組みにおいても、受講生は戸惑うことなく合奏することができた。これは、周知の楽曲を使用したことがその要因の一つであると考えられるが、集中して演奏を行うためには「音楽を楽しむ」ということが重要であると考えられた。

このように、本研究の体験的な実践において、楽しみながら音楽活動を行うことにより、集中力、記憶力、コミュニケーション能力、協調性、責任感、練習意欲の向上が期待できると考えられた。

また、音楽基礎知識の学習の観点からは、イタリア音名と日本音名の関係性の理解や、音符や休符の

長さなどの基本的な知識を理解した様子であった。音符の計算クイズにおいて、できる喜びを実感している様子も伺えた。

これらを通して、さらに学習意欲を高めるためには小さな達成感や成功体験を積み重ねることと、学生の理解力に合わせたカリキュラム作りが重要であると考えられた。

我々指導者としては、学生が自ら意欲的に学習できる環境を整えること、また実践と知識面でのフォローに重点を置くことも忘れてはならない。

V 今後の課題

音楽基礎知識の学習に関しては、個人差はあるものの小中学校の義務教育で学習したはずの内容が身についていない傾向が予想以上に多くみられたことから、まずは音部記号や音符の長さなどを始めとする基礎固めを行い、その上で保育に必要な音楽知識を習得できるよう指導していきたい。

また今後も引き続き研究を重ね、ピアノの練習に悩みや迷いがないかを細かく把握しながら、特にピアノ初心者についてのより効果的なレッスン方法の改善、今年度から導入された電子ピアノを使ったグループレッスンの指導の在り方を検討していきたい。

■引用文献

- 1) 幼稚園教育要領解説「文部科学省」平成20年10月施行。

■参考文献

- ・山田俊之著、「楽しいボディパーカッション3リズムで発表会」、音楽の友社、2011年。
- ・山田俊之著、「ザ・ボディパーカッション B級グルメパーティ」、音楽の友社、2014年。
- ・岡崎裕美、二見美千代、佐久間敦子共著「保育士養成校におけるソルフェージュ教育の必要性—音楽表現とリトミックからの実践」、千葉敬愛短期大学総合子ども学研究所、2021年3月。
- ・板野平監修、神原雅之・野上俊之編著、「ダルクローズ教育法によるリトミックコーナー」、チャイルド本社、2016年2月。

VI 補足資料（ピアノ初心者のための音楽基礎講座及び入学前教育受講者アンケート・音楽基礎知識確認テスト）

本学を希望する高校生の多くがピアノの学習経験がなく初心者であることは、昨年度の「保育士養成校におけるソルフェージュ教育の必要性—音楽表現とリトミックからの実践」（千葉敬愛短期大学総合子ども学研究所、2021年3月）で述べたが、昨年度の高校生対象の音楽基礎講座の実践においても、ピアノの学習経験のない者が半数以上であることや音符や拍子、音楽記号、コード等の基礎的な知識の習得が十分でないことが本学における「器楽」の学習にも大きく影響していることが分かった。

今年度は、同様の講座の参加者や入学前教育の受講者に対し、ピアノ学習の経験の有無の他に、鍵盤楽器の所有の有無や、音楽の基礎的な知識理解の確認テストを行い、入学予定者の「音楽」的素養のレベルチェックを行い、実践研究によってより効果的な指導内容や方法を探ることとした。

資料1 初心者のための音楽基礎講座アンケート集計結果（2021.11.21 実施）

1 アンケートについて

（1）調査の目的

- ・入学予定者の鍵盤楽器演奏の経験やレベル、既習の「音楽基礎知識」について確認する。
- ・ピアノ初心者や入学後のピアノの授業への不安をのぞき、効果的な指導・支援を検討する資料とするため

- (2) 調査対象者
ピアノ初心者のための音楽基礎講座（11月21日実施済）27名
- (3) 調査の方法
質問紙（講座の終了時に回答し、回収）
- (4) アンケートの作成・集計 岡崎・二見・佐久間
- (5) 結果の分析 岡崎・二見・佐久間

2 アンケートの集計結果

- (1) 教科「音楽」の授業選択
音楽選択者 15名（56%） その他の教科 12名（44%）
- (2) ピアノ・エレクトーン等鍵盤楽器の学習経験
経験者 9名（33%） 経験なし 18名（67%）*
- (3) 学習歴・時期・最終レベル
- | | | | |
|-----|----|----------|-----------|
| 1年 | 2名 | 3～4歳まで | 不明 |
| | | 6～7歳まで | 不明 |
| 2年 | 1名 | 10～12歳まで | 不明 |
| 4年 | 1名 | 6～10歳まで | バイエル |
| 5年 | 2名 | 7～12歳まで | 教本なし・好きな曲 |
| | | 10～15歳まで | ブルグミュラー |
| 8年 | 1名 | 4～12歳まで | ブルグミュラー |
| 12年 | 1名 | 2～14歳まで | バイエル |
| 14年 | 1名 | 4～18歳まで | ブルグミュラー |
- (4) 学習歴のない者の、鍵盤楽器で曲を弾く経験・具体的な内容
- | | |
|-------------|----|
| 全くない・ほとんどない | 6名 |
| 右手だけ | 6名 |
| 両手で | 6名 |
- 具体的な内容
「ちょうちょう」「かえるのうた」初心者のためのピアノ、初心者用のピアノのテキスト、ド～ソまでの短い曲・高1の選択授業で弾いた
自分の好きな曲をインターネットで調べて、ユーチューブを見てまねた*
- (5) 音楽基礎知識で既習のものについて
- | | | | |
|----------------|----------|------|----------|
| ト音記号の形 | 22名（81%） | 知らない | 5名（20%） |
| イタリア語音名（ドレミ） | 26名（96%） | 知らない | 1名（4%） |
| 日本語 音名（ハニホヘト） | 20名（74%） | 知らない | 7名（26%） |
| 英語音名（CDEFG） | 9名（33%） | 知らない | 18名（67%） |
| 休符の読み方 | 13名（48%） | 知らない | 14名（52%） |
| 音符や休符の長さ | 20名（74%） | 知らない | 7名（26%） |
| 拍子について | 20名（74%） | 知らない | 7名（26%） |
| ピアノを弾く時の姿勢や指の形 | 18名（67%） | 知らない | 9名（33%） |
| 指番号 | 18名（67%） | 知らない | 9名（33%） |
| 音名と鍵盤の一致 | 16名（59%） | 知らない | 11名（41%） |

(6) ピアノ演奏の上達への期待・歌唱などについて

ピアノを上手に弾けるようになりたい 27名

どんな曲が弾きたいか (自由筆記)

子どもの歌・童謡・保育に役立つ曲 13名

ジブリの曲・ディズニーソング・アニメソング 8名

「ねこふんじゃった」・「どんぐりころころ」・「さよならほくたちの幼稚園」

子どもたちと歌いながら楽しく弾ける曲

子どもが元気よく歌える曲

卒業ソング

(7) 歌うことは好きか・どんな歌が好きか

歌うことが好き 26名 いいえ 1名 (あまり上手じゃないから)

好きな歌

K-pop・J-pop・流行曲・明るい歌・リズムカルな曲・合唱曲・スローテンポの曲

ディズニーソング・楽しい歌・いきものがかりの歌・AAA・

(8) 歌の上達への期待・どんな曲を歌えるようになりたいか

歌が上手に歌えるようになりたい 27名

どんな曲が歌えるようになりたいか

童謡・手遊び歌・保育園で使う曲・子どもと一緒に歌える曲・子どもが喜ぶ曲 19名

幅広い曲 2名、明るくテンポの良い曲 2名、アニメソング 2名

小さい子に少し難しい曲、音域の広い曲 各1名

3 考 察

調査対象者27名のうち17名が10月の講座を受講しており、音楽の基礎知識、ピアノの片手・両手演奏を講座の中で体験した。

(1) ピアノ初心者は約7割 (67%)

質問1・2・3において、音楽選択者は56%だったが、ピアノの習い事経験者は33%と低く、学習レベルもバイエル2名、ブルグミュラー3名、好きな曲1名、不明2名である。

(2) ピアノの学習未経験者 (ピアノ初心者) の独学の課題

質問4において、ピアノの学習歴のない者のうち、「初心者用のテキストを買って」「インターネットで調べて」「ユーチューブを見ながら」という回答もあったが、適切な指導がない場合は読譜力のないまま形だけをまねて演奏するという学習方法を身に付けてしまうことになる。

楽器演奏の基本の読譜力を身につけさせ、実習や採用試験、また現場に出たときに初見の曲や子どもの状況に応じた演奏ができる力を育てることが重要だと考える。

(3) 音楽基礎知識について6割以上が理解していない

質問5については、ト音記号の形やイタリア語音階 (ドレミ) については8割以上が知っているとは回答したが、休符については5割にとどまった。

ピアノの演奏の基礎である姿勢や指の形、指番号、音名と鍵盤の一致などの質問では、3割から4割が理解できていない状況である。さらには10月9日の講座の受講者の回答を除くと、理解している率は下がり、ピアノ演奏については7割が初心者という結果であった。

(4) 音楽教育への期待

質問6～8については、保育を目指す高校生であり、そのことが子どもに対する思いとしての曲選び

になっていると思われる。

一方で自分の好きな曲も演奏・歌唱できるようになりたいという期待が記述されており、授業において、学生自身も楽しく感じ取れる曲や歌で参加意欲・学習意欲を高めていくことも有効ではないかと考える。

資料2 入学前教育受講者へアンケート及び音楽基礎知識確認テスト結果（2021.12.4 実施）

1 アンケート・音楽基礎知識確認テストについて

（1）調査の目的

入学予定者の「音楽基礎知識」の有無、レベルの測定
及び入学後の学習環境としての鍵盤楽器の所有状況の調査の為
＊「音楽教育」における学生の実態調査と授業・支援の方法を探るため

（2）調査対象者

今年度実施の入試総合型Ⅰ期合格・入学予定者65名のうち欠席5名を除く60名

（3）調査の方法

質問紙（講座のはじめに回答し、回収）

（4）アンケートの作成・集計 岡崎・二見・佐久間

（5）結果の分析 岡崎・二見・佐久間

2 アンケート集計結果

（1）教科「音楽」の授業選択の有無

音音楽選択者 37名 その他の科目 23名

（2）音楽選択者の中で基礎知識（楽典）やソルフェージュの学習

学習経験者 17名 未経験者 20名

（3）鍵盤楽器の所有 43名 無 17名

（4）所有する鍵盤楽器

ピアノ 13名 電子ピアノ 26名 卓上キーボード 2名

複数所有 2名（ピアノ・キーボード 1名、ピアノ・電子ピアノ・キーボード 1名）

3 音楽基礎知識確認テスト結果

	質問項目	（％）回答者60名に対する割合 少数第3位を四捨五入			
1	「音楽」選択の有無	有 37名 (62%)		無 23名 (38%)	
2	基礎知識(楽典)やソルフェージュの学習	有 17名 (28%)	無 20名 (33%)		
3	鍵盤楽器の所有の有無	有 13名 無4名	有 13名 無 7名	有 18名	無 5名
		有 44名 (73%) 無 16名 (27%)			
4	ピアノ	13名 (22%)			
	電子ピアノ	26名 (43%)			
	卓上キーボード	2名 (3%)			
	その他 複数所有	2名 (3%) ピアノ・キーボード、ピアノ・電子ピアノ・キーボード			

（1）記号の名称

①ト音記号 ②ヘ音記号 ③4分音符 ④8分音符 ⑤4分休符

（2）記号の名称と意味

- ①rit. (だんだん遅く) ②p (弱く) ③f (強く)
 ④スタッカート (音と音の間を切って歯切れよく演奏すること) ⑤# (半音高くする)
 ⑥b (半音低くする)

(3) 記号の読み方 ①4分の4拍子 ②スラー

(4) 音階 ハ長調

(5) コード名 英表記・カタカナ

- ①C ドミソ ②Dm レファラ ③F ファラド ④G ソシレ

(6) 拍の理解

- ① 4分音符を1拍とした場合 2分音符は(2拍)、16分音符は(0.25拍)
 ② 4分休符を1拍とした場合 2分休符は2拍、8分休符は(0.5拍)

4 アンケート結果の考察

	① ト音記号		② ヘ音記号		③ 四分音符		④ 八分音符		⑤ 四分休符			
音楽選択者	31 (52%)		31 (52%)		29 (48%)		25 (42%)		22 (37%)			
他教科選択	13 (22%)		9 (15%)		9 (15%)		8 (13%)		4 (7%)			
	① rit		② p		③ f		④ スタッカート		⑤ #		⑥ b	
	名称	意味	名称	意味	名称	意味	名称	意味	名称	意味	名称	意味
音楽選択者	12 (20%)	8 (13%)	31 (51%)	26 (43%)	29 (48%)	27 (45%)	25 (42%)	21 (35%)	36 (60%)	23 (38%)	27 (45%)	22 (37%)
他教科選択	8 (13%)	1 (2%)	12 (20%)	10 (17%)	12 (20%)	10 (17%)	4 (7%)	3 (5%)	16 (27%)	7 (12%)	10 (17%)	6 (10%)
	四分の四拍子				スラー				ハ長調			
音楽選択者	16 (27%)				18 (30%)				10 (17%)			
他教科選択	9 (15%)				5 (8%)				2 (3%)			
	C ドミソ		Dm レファラ		F ファラド		G ソシレ					
音楽選択者	11 (18%)		8 (13%)		11 (18%)		8 (13%)					
他教科選択	1 (2%)		1 (2%)		1 (2%)		1 (2%)					
	4分音符が1拍の場合				2分音符は2拍				16分音符は0.25拍			
音楽選択者					26 (43%)				12 (20%)			
他教科選択					13 (22%)				3 (5%)			
	4分休符を一拍とした場合				2分休符は2拍				8分休符は0.5拍			
音楽選択者					13 (22%)				13 (22%)			
他教科選択					6 (10%)				5 (8%)			

(1) 音楽基礎知識を学んでいない生徒が7割強 (72%)

高校在学時に教科音楽を選択した者は約6割 (62%) であり、楽典や読譜の学習を経験した者は、全体では約3割 (28%) の生徒である。つまり入学者の7割強が基礎的な知識を学校では学んでいない状態である。また、学びの内容、修得の状況も確認テスト (後述) でわかるように十分なものではなく、こうした実態に対する支援の在り方は検討しなければならない。

(2) 鍵盤楽器を所有していない (練習環境がない) 者は約3割

鍵盤楽器を所有する者は73%、所有していないものが27%であり、自宅で練習ができる環境にない生徒への手当、支援方法も重要である。また、電子ピアノの所有は約4割で、ピアノは2割であり価格や使い勝手の上から電子ピアノの方がより身近な鍵盤楽器になっていて、自宅での練習との連動の観点か

らも電子ピアノを使った指導に期待する。

5 音楽基礎知識確認テスト結果の考察

(1) ト音記号・ヘ音記号、音符・休符の基本事項は約半数が分からない現状

音楽選択者の正答率が高いのは高校までの教育の中で一通りの学習がされているということだと考えるが、「演奏」の観点から考えるとト音記号やヘ音記号・音符・休符という基本事項でさえも半数以上が知らない現状であることがはっきりした。

(2) rit. p f # b などの演奏法の記号は約60%が分からない現状

比較的正答率が高かったのは#の名称で60%、ついでp50%だが、意味の理解は40%と下がり、ritになると正答率は20%、意味については13%しか答えられない。

(3) 拍子や音階、コードの理解は平均すると18%の正答率

拍子や音階、4分の4拍子でさえ27%、ハ長調は17%、コードに至ってはCが18%、Dm・Fは13%、Gは10%と更に低くなる。

(4) 事前の学習で基礎を習得させることの有効性

音符や休符の長さ（拍）の理解の正答者は、ほとんどがピアノ初心者のための音楽基礎講座の受講者であり、音符や休符の名称の正答者も、講座で学んだことが残っていたものと考えられる。基礎知識の習得という過程を経て、演奏法の習得に向かうことが不可欠だと考える。

6 提言

昨年度、今年度と2年間の岡崎・二見の実践研究は、本学入学生の音楽的素養等の実態把握の上で、より効果的な「音楽教育」の在り方を検討し提言するためのものであった。

昨年度は、他の短大の実践研究を学び、本学の在学生の「器楽」教育への意識や学習の変容について質問紙による調査や聞き取りによる現状把握を行い、本学志願者に対するアンケートなどと併せて、初心者対応の講座の重要性を指摘した。初心者向け講座の開設、学習進度の遅い学生への支援の仕組みができ、一定の効果をえた。

今年度は、音楽基礎講座の受講者へのアンケート・入学前教育受講者に行った音楽基礎知識確認テストにより、本学入学生の音楽的素養や、ピアノの練習環境などについて、実態把握と指導法を検討した。

授業の中で、基礎的な知識や技能を身に付けるために、どのような内容を、どのように指導するかは専門家に委ねられるべきだが、「演奏」についての初心者は7割以上であり、学習経験者も大きくレベルの差があるということが質問紙からもはっきりしている。

グループレッスンが可能な環境ができ、学生が一斉に練習できることや同レベルの学生がグループになれば、全体で同じ指導ができることも、効率的である。特にレベル別学習については、学生からは自分だけができないと苦痛に感じるなどの心理的な負担も軽減されるという副次的な効果もあり、初心者にとっては重要である。

学習内容においても、コードによる簡易伴奏法などを正規授業に取り入れている短大も多く、保育現場で役立つ「音楽力」の一つとしても、採用試験の際に問われる力となっていることから、検討されたい。

保育者に求められる「音楽力」とは何か。子どもの発達・成長の上での「音楽」の捉え方、特に保育者養成校が目指す音楽教育について、初心に立ち返って再構築することも重要である。（佐久間）